

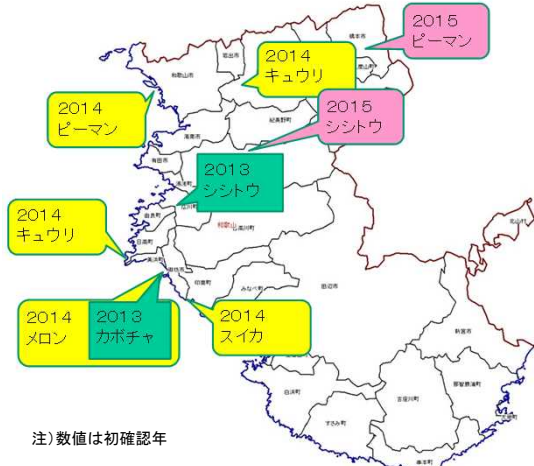
# 和歌山県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生状況とモニタリング方法

和歌山県農業試験場

県内の野菜産地では2013年3月以降、ネオニコチノイド剤※抵抗性(以下ネオニコ抵抗性)ワタアブラムシの発生が確認されています。そこで、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、宮崎県、大分県、日本曹達株式会社と連携し、遺伝子(DNA)を用いた効率の良い抵抗性診断技術の開発を行っています。

※ネオニコチノイド剤には、アドマイヤー、アルパリン/スタークル、アクタラ、ダントツ、ベストガード、モスピラン等が含まれ、ワタアブラムシの基幹防除薬剤として使用されてきました。

## 県内の発生状況

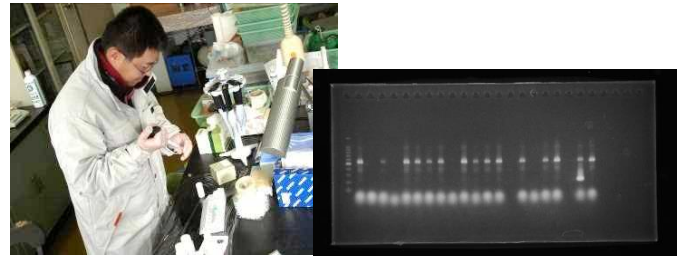


ネオニコ抵抗性ワタアブラムシが発生した地域では、翌年以降も継続して発生が確認されています。

## 遺伝子を用いた抵抗性診断技術

和歌山県では農研機構が開発したマルチプレックスPCRという方法を使って、効率良く抵抗性個体を診断する方法を研究しています。

診断期間: 1日  
ワタアブラムシ1頭から診断出来ます。  
死んでいるワタアブラムシでも診断が可能です。



## 効率的な採集法

ワタアブラムシを採集するには時間と労力がかかります。そこで、黄色に集まる性質を活かし、黄色の水盤を使い効率よく採集する方法を開発しました。手順は次の通りです。

① 雨の降らない日に水盤を設置



飛来



中の水は、洗剤“ママレモン”を200倍に薄めたものです。

3日後に回収



② あくとり網でこしとります。



③ 99.5%エタノールに移します。



④ 保存容器に入れて、冷凍保存します。

⑤ 遺伝子診断へ

⑥ 発生実態に合わせた防除法を選択  
例)  
防除薬剤の変更  
耕種的防除の検討

## 抵抗性発生状況を調べてみませんか

平成30年3~5月に、これらの技術を使ってワタアブラムシの抵抗性発生状況調査を計画しています。ご自身のほ圃場周辺の発生状況を知りたい方は、採集資材の貸出が可能ですので、ご相談ください。作物に発生したワタアブラムシも診断可能ですので、ほ場内のできるだけ多くの場所から採集して、生きたまま、または手順③④と同様に処理してお持ちください。